

時の階

平成 29 年春号
(第 5 号)

平成 29 年 3 月発行

三郷市文化財サポーター代表

発行：記録広報部会

事務局：生涯学習課

048-930-7759

平成 28 度特別展

「三郷の仏教と仏像

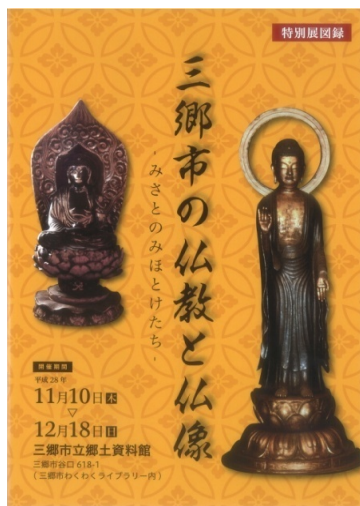
くみさとのみほとけたちく」

開催されました

さる平成 28 年 11 月 10 日より、12

月 18 日まで、平成 28 年度の特別展

「三郷の仏教と仏像くみさとのみほとけたちく」が三郷市立郷土資料館で開催され、盛況のうちに無事、終了しました。



三郷市仏教会の全面的なご協力の

もと、市指定文化財「軀を含む十三

軀の仏像をはじめ、仏画、仏具など

珍しい品々が展示されました。

素晴らしい図録も作成され、期間

中に 1、442 名もの方々が来館し

てくださいました。

文化財サポーターも開催前の準備

から開催中の見守り、閉会後の展示

物の撤去まで、特別展のさまざまな

場面で、協力させていただきました。



準備の段階では普段はめつたに触

れない、三鈷杵や香炉など、黄金色

に輝く見事な護摩壇の前具を磨かせ

て頂いたり、貴重な仏画の掛軸を間

近で拝見させて頂いたり、サポ

ーターならではの貴重な体験もさせて

いただきました。

また撤去時には、常設展示の現況

復帰にひと苦労。貴重な縄文土器を

手に緊張しつつ、複雑なパズルを解

く思いました。



常設展示の土器・石器。展示をこれに戻します！



サポーターも参加して、護摩壇と仏具を磨きます

特別展より

木造弁財天坐像

(市内円福寺所蔵)



開催期間は終わってしまいましたが、今回の特別展には大変面白い仏像が展示されていたので、ご紹介しようと思います。

それがこの、市内鷹野にある円福寺の弁財天坐像です。

『みさと七福神』の八木郷戸ヶ崎めぐりの一つにもなっている弁財天様です。補修され、鮮やかな彩色になっていますが、江戸中期につくられたものです。

しかし、何にも増して面白いのが

その御姿です。一般的な琵琶を手にした御姿ではなく、八本の腕を持ち、しかも頭の上には白髪の老人の顔を、した白蛇がとぐろを巻いて載っています。どうしてこんなお姿をされているのでしょうか？



弁財天は奈良時代頃、仏教とともにインドから伝わりました。

本来はサラスワティというインドの川の神様で、音楽の神様でもありましたが、仏教に取り入れられると、仏教の守護神となり、経典の一つ『金光明最勝王経』では八本の腕を持ち、それぞれに武器を持つ御姿

とされました。そのため、東大寺の弁財天塑像（奈良時代）など古くから、八本腕の御姿でも造形されています。

平安時代の後半になると神仏習合と言って仏教と日本古来の神様が一体になる動きが出てきます。その中で、弁天様は「宇賀神（うがじん）」という老人の顔をした白蛇の神様と同一視されていきます。

この宇賀神様、実は詳しいことがよくわかっていません。名前から宇伽御魂（うかのみたま）すなわちお稲荷様のことだとする説もありますが、それも一つの説にすぎません。

ただ、このころから福の神として意識されてきたようで、頭に宇賀神を載せるとともに八本の腕の持ち物の中に武器だけでなく、福徳をあらわす「蔵の力ギ」が含まれるようになります。

このような中世の神仏習合の中か

ら生まれてきたのが、この不思議な御姿の弁財天像です。

今回は展示されませんが、『みさと七福神』早稲田めぐりに入っている早稲田の光福院の弁天堂の弁財天も同じお姿をしています。

面白いことに、弁天堂の前には狛犬ではなく、石の蛇が置かれていますが、これも宇賀神信仰とつながりがあるのかもしれない。

詳しくはわかりませんが、弁天堂とともに明治期に作られたようです。



最近では描かれることの少ない御姿ですが、昔の仏像には意外と多いので、ぜひ気に留めてみてください。お寺巡りが面白くなるかもしれません。

三郷市文化財サポーター 歴史散策及び懇親会

12月18日に文化財サポーターの懇親会を兼ねて、歴史散策が行われました。今回の参加者は12名で行き先はおとなり、松戸の城跡です。三郷にも戸ヶ崎の匝瑳氏居館などいくつか中世の居館があったと考えられています。確証のないものもあり、残念ながら遺構は整備されていません。

そこで三郷市ともゆかりのある松戸市の小金城跡と根木内城跡を見学しました。松戸市北部に小金城、根木内城の両城を築いた高城氏はこの地を拠点に東葛地方を支配し、三郷市の一部もその所領に加えていました。江戸時代に書かれた地誌『新編武蔵風土記稿』にも、丹後村や幸房村の記事に村の開拓を行った人々が、

もともと高城氏に仕えていたことが記されています。

高城氏は高城胤吉の時代に最盛期を迎え、有名な国府台合戦では北条氏に味方し、活躍しました。その後も、豊臣秀吉によって開城されるまで繁栄しました。



現在も大谷口歴史公園内に、北条氏とのつながりを示す、独特の障子

堀の遺構が残されています。

午後には訪問した根木内城も小金城と同様に、高城氏の残した城跡で、歴史的には小金城よりも古く、小金城に移る以前の居城になります。根木内城も根木内歴史公園として城跡が整備されており、大規模な空堀や切岸などの遺構が残されています。



常設展示

リニューアル!

特別展の終了に伴い、再び郷土資料館の常設展が再開しました。それに伴い、一部の展示がリニューアルされました。新しい展示の目玉は、戦前から戦中にかけて用いられていた家庭用品、火のし、香時計のような今では珍しいものがたくさん展示されています。特に蓄音機は大変立派なもので見ごたえ十分です。特別展は終わってしまいましたが、ぜひ郷土資料館に足をお運びください。



サポーターの抱負

前回に続き、第二期サポーターの皆様のご感想と抱負をご紹介します。

サポーターの仕事は資料の保存や展示、記録の基礎的な作業補佐をするということ実践指導していただきました。

経験して思ったことは塵とほりとの戦い、マスクは必須です。資料館は資料収集保存が主でしたが、最近は展示に力を入れる資料館が多くなったといわれています。たくさんの方に足を運んでいただき、情報を共有し伝承していただけるように協力していけたらと思っています。

鈴木 怜子

住民になって30年にもなるのに、三郷について何も知らなかった私があるきっかけで市指定無形民俗文化

財「三匹の獅子舞」について調べることになった。

三郷市史によると、1582年、戸ヶ崎に浅間神社を祀り奉納した獅子舞が「三匹の獅子舞」の由来とされ、1807年の江戸川の氾濫の時、名主の息子白石茂平・岩蔵兄弟が、決死の覚悟で、土手を切り、領民を救ったという。激流にのまれ犠牲になった兄弟を永久に伝え残すべく「大刀の舞」を獅子舞に取り入れたそうである。

ボランティア仲間のTさんが、富足神社と興禅寺の「三匹の獅子舞」の奉納に誘って下さった。念願叶って獅子舞を見ることができた。舞は言わずもがな、踊り手・囃子・世話役、すべてに感動した。伝承し続けることの大切さをしみじみ感じた。ボランティア活動が、一役を担うことが出来れば幸いである。

高森 早苗

文書資料部会に所属して、古文書の勉強をさせて頂いております。

始めたばかりで古文書にはまだ数例しか接していませんが、私は古文書の文字は「謎」です。まるで「宇宙人」の字です。昔の人はこんな字を巻物に、片手でスラスラと書いていたかと思うと不思議でなりません。

今、月に一度の文書部会で渡される宿題の古文書の解説に大変苦心しています。年金生活ですから何千円もする辞書はとも買えません。図書館から借りてきた本をコピーして手作りしています。私にとって古文書は未開の地を切り開くと同じで一字一字根気良く調べてゆくしかありません。その作業はとも手間がかかりますが、楽しみでもあります。一日でも早く、くずし字や変体仮名が読めるように頑張ります。

滝沢 一雄

編集後記

昨年度の秋から発行が始まったこの広報誌も第五号となりました。

文化財サポーターの記録広報部会の活動の一環として発行させていただいていますが、仕事の都合等で編集が遅れてしまい、なかなか定期的な発行が出来ず、周囲の皆さんにもご迷惑をおかけしてしまいました。

それでもここまで来れたのも、郷土資料館の生涯学習課の皆さんやサポーターの皆さんのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

次号は新年度の最初の発行になると思いますが、今号でも少し触れた常設展示のリニューアルについて特集できればと思っています。